

当世跡継ぎ事情

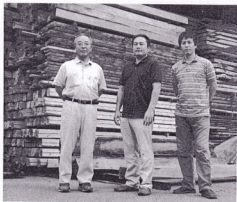
<24>

原木を角材や板などにと建ったという。義明さん、英哉さん、丈哉さん、亀山市加太の三栄林産で

五十年前と比べるとほぼ半数となった。今日に残る業者は、住宅工法の近代化や外材の輸入、木材価格の下落が続き、大手ハウスメーカーの進出で大量かつ安定的な建材の調達求められるなど、中小の製材業者には厳しい状況となる。

もその一つ。会長の坂義明さん(左)は娘婿で、林業をしていた先代の安明さんから山と製材工場を引き継ぎ、昭和四十六年に同社を設立した。当時、鈴鹿市周辺は本田技研工業鈴鹿製作所を中心に発展し、家がどんどん

製材・建築「三栄林産」亀山市



(左から)坂義明さん、英哉さん、丈哉さん

工場でCAD(コンピュータ)利用設計システムおのずと見えてきた。建機に、機械による部材加工(フレカット)を学

3兄弟、火事から再建

し、手応えをつかみ始めた。平成十四年の八月十六日、突然の危機に見舞われる。義明さんが「(自宅)で警報を聞き、工場を見に来たら、ものすごい勢いで燃えていた」。元は木材に風を送る乾燥機。倉庫に積んであった大量の材木が燃え、事務所に保管していた顧客関係の書類も消失した。益々休んで誰もいなかったのは不幸中の幸いだった。

三男の丈哉さん(右)は、米国の大学の建築科を卒業し、大阪の建築設計事務所を経て建築士となった。同社の住宅設計を担い、国産材の良さを生かした木造住宅を手掛けている。

義明さんいわく、「それぞれ城を守る形」で、家族四人がうまく連携してきた。林業から製材業、建築といち早く軸足を移してきたのは「なにか食らいつついてい

助けるため会社を辞めて実家に戻った。再建に加わった丈哉さんは、平成十七年に新たな事業を始めた。前職の経験を生かして倉庫の一角に木工家具と雑貨の店「フッティーハウスリビング」を開いた。狙いは二つ。まずは「木を売ることに」。それと「家を建てたい人が気軽に相談できる場所をつくること」。

次男の成哉さん(中)は、米国の大学の建築科を卒業し、大阪の建築設計事務所を経て建築士となった。同社の住宅設計を担い、国産材の良さを生かした木造住宅を手掛けている。

義明さんいわく、「それぞれ城を守る形」で、家族四人がうまく連携してきた。林業から製材業、建築といち早く軸足を移してきたのは「なにか食らいつついてい

現在は林業を休止し、製材業は大手以外が生き残るのは困難な時代となった。それでも、「うちが山があるので、製材をやめるわけにはいかない」と、義明さんはこたわ

昨年しくなった先代が五十年前以上に植えた苗は、立派な原木に育つころ。切らずに放置すれば山は荒れる。義明さんは、「山の木を切つて製材し、自社ブランドの木材で家を建てるのが究極の目標」と語った。息子らは無言でうなずいた。

三栄林産への問い合わせは、ノッティーハウスリビング電話05995(98)0678へ。(地域報道部・鼻谷年雄)この連載は毎週日曜日に掲載します